

上野天神祭：向島町

向島町の「しるし」は「日月扇（じつげつせん）」で、その中心は、太陽と月で飾られた伝統的な扇である。上野天神祭りは、神道では神である菅原道真(845–903)の精神に献じられている。天神は昔から日月の運行を司る神様と考えられてきた。「しるし」の扇は行列曳行時ゆっくりと回転することでこれを表現している。

「だんじり」の鉄英鉾は、1859年に作られた。「鉄の花の剣」と訳されている。2つの視覚的要素で表現されている：鉾は「しるし」と「だんじり」の頂上の両方に梅の花で飾られている。「だんじり」の破風は、金メッキされた梅の花の複雑な彫刻で覆われている。屋根の前面と背面には、探溟と剪莽という漢字の文字の扁額が掛けられており、長い草（剪莽）を切り倒しながら、暗闇の中を進む開拓者（探溟）を象徴している。

他の神聖な動物は、だんじりのすべての幕に見られるが、鳳凰の群れは、見送幕に刺繍されている。向島町の「だんじり」は、お囃子奏者の席の横まで金の装飾で覆われ、祭りで最も豪華な山車の1つである。